

## 平成 30 年度琴浦町国民健康保険運営協議会（第 2 回）議事録【要約】

1. 日時 平成 31 年 2 月 21 日（木）14:00～16:00
2. 場所 琴浦町役場 本庁舎 第 2 会議室
3. 出席者 被保険者代表 安谷 委員、入江 委員  
公益代表 三浦 会長、田中 委員、藤本 委員  
医療機関代表 青木 委員、石亀 委員、松本 委員  
事務局 小松町長  
大田町民生活課長、高多保険係長、黒木主任  
大田税務課長  
難波健康推進係長

### 【議事】

#### (1) 会議録署名委員

安谷 委員

田中 委員

#### (2) 平成 30 年度国民健康保険特別会計執行見込について

- ・被保険者数はこれまで同様、人口減少とともに年々減少している。
- ・保険給付費は全体的には増加傾向にあったが、今年度は減少傾向にある（特に 60～64 歳）。
- ・保険税については、前年度同時期と比較して徴収率が微増している。
- ・平成 30 年度予算は、国保制度改正により急激に保険税負担が上昇する市町村へ充てられる「激変緩和措置」の影響で保険税に余剰が生まれ、約 2400 万円の基金積立ができる見込み。
- ・特定健診の受診率は 1 月末時点で 34.2%と前年を上回っている。郵送、電話による受診勧奨の効果が出てきている。
- ・保健事業は昨年策定した第 2 期データヘルス計画に基づき進捗管理・効果検証を行っている。

#### (3) 平成 31 年度国民健康保険について

- ・平成 31 年度に県に支払う納付金は対前年比 2400 万円の増額となった。また、激変緩和措置は約 1300 万円の増となった。
- ・激変緩和措置の財源は昨年度より減少しており、今後算定額が財源を上回ると財源の範囲内での措置となり、大幅な負担増が予測される。
- ・高齢者の増加と激変緩和措置の減少で今後数年間は納付金が増加する見通し。
- ・今後も厳しい財政運営が予想されるが、平成 31 年度の保険税率は据え置きとする。
- ・保険税のあり方について、資産割の廃止、応能・応益割合等、今後も検討していく。

#### (4) その他

- ・ジェネリック医薬品数量シェア率の推移については、全体的に微増傾向だが、近年は頭打ちとなっている。先発品とジェネリックの価格差が小さくなり、先発品の方が供給面で安定していることも影響していると思われる。

その他（各委員さんからの意見）

- ・地域の健康づくりについて、糖尿病の重症化と歯周病の関連付けが必要ではないか。

- ・医療費をたくさん使うのは特定健診を受けず健康管理をしていない人が多いのではないか。特定健診を受けて健康管理していただくため、特定健診を受けたら保険税を還元する等、抜本的な解決をしなければ医療費は減らないのではないか。
- ・所得の低い人の資産割による負担感は解消すべき。
- ・応能・応益割合について県の標準割合と真逆となっており、もう少し調整が必要ではないか。
- ・メタボの改善について40歳以上に限らず(若者にも)運動に取り組めるように考えてもらいたい。
- ・ジェネリック医薬品も様々で、オーソライズドジェネリックというものがある。先発品と全く同じもので品質も良く、先発品を開発したメーカーに利益が還元されるため新たな新薬の研究・開発にも繋がる。このような新たな視点も取り入れてはどうか。

会議録署名委員

---

---